

## RisKma バーチャル水面マップ 別紙解説

### (1)バーチャル水面マップについて

バーチャル水面とは、河川水位や海水面を、河川周辺や海岸線の周辺の土地まで延伸した仮想上の水面です。バーチャル水面マップは、バーチャル水面より低いエリアをリアルタイムで表示したマップです。土地の標高よりもバーチャル水面の方が高いエリアは、その差分[m]の数値を7段階に分けて着色して示しています。解析の解像度は250m 格子グリッドです。

これによって示された範囲は、河川水位が高いときに水路や支川から排水できずに生じる内水や、もし堤防がないときに河川から水が押し寄せてきたり、防潮堤がないときに海岸から海水が押し寄せてきたときなどに、浸水する可能性のあるエリアとして表示します。

なお、雨が降っていない平常時でも、海拔ゼロメートル地帯や、河川水位や海水面より標高が低いエリアは、常時着色されている場合があります。常時着色されやすいエリアについては、マップ上に枠で囲った表示を行っています。

ご覧になる場合はこれらの特性を十分にご理解の上、ご利用ください。またご利用の際は、合わせて気象庁の大雨・洪水(内水害)の警報や内水リスク予測にも十分注意してください。

### (2)よくいただく質問と回答

#### ハザードマップとは何が違うのですか？

ハザードマップや浸水想定区域図は、過去の大きな洪水などを解析したうえで、今後起こりうる最大の浸水範囲・浸水リスクを示したものです。

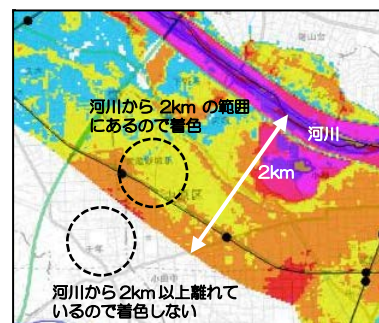
バーチャル水面マップは、今、現在の河川水位の状況に対して「もし堤防がない時」に浸水が生じる可能性がある範囲を示しています。リアルタイムの降雨の状況により、河川水位も時々刻々変化するため、着色範囲もそれに応じて変わっていきます。

また、着色される範囲は河川や海岸から近いエリアに限られています。知りたいエリアが大雨のときに浸水する可能性があるかどうかは、ハザードマップや浸水想定区域図をご確認下さい。

#### 着色されていないエリアは安全ですか？

河川や海岸近辺の浸水によるリスクが高い範囲を示すため、河川沿いは河川の中心から両岸方向に「2km」の範囲、海岸沿いは海岸ラインから「5km」の範囲を対象に着色しています。

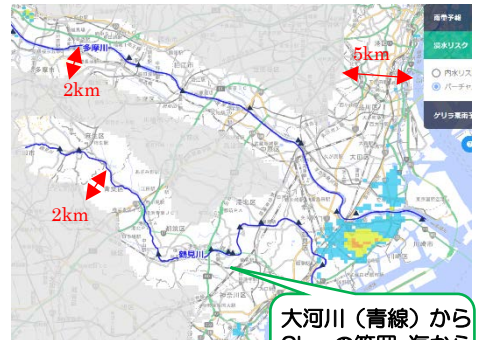
そのため、河川から2km、海岸から5km離れて急に着色がなくなるエリアが安全というわけではありません。ハザードマップなどで浸水の恐れがあるかご確認ください。



## □ 私の家の近くにある川、私の家も対象ですか？

全国 109 水系の一級河川の、主に国管理区間を河川の対象に、その河川から「2km」の範囲を対象エリアに着色しています。対象となる河川の範囲は、マップ上に青いラインで表示しています。

一級河川でも県や市町村が管理している中小河川などについて、現時点では対象としてませんので、知りたいエリアが大雨のときに浸水する可能性があるかどうかは、ハザードマップや浸水想定区域図をご確認下さい。



大河川（青線）から2kmの範囲、海から5kmの範囲が対象

## □ 着色されたエリアは、必ず浸水するのですか？

あくまで「もし堤防がない時」の可能性を示した仮想マップですので、実際に浸水するエリアとの整合は取れておりません。バーチャル水面マップは、今、現在の河川の状況に対して「もし堤防がない時」に浸水が生じた場合のリスクです。

また、前の質問に記載したように、着色している範囲は河川や海岸から近いエリアに限られていますので、知りたいエリアが大雨のときに浸水する可能性があるかどうかは、ハザードマップや浸水想定区域図などをご確認下さい。

## □ 雨が降っていないのにいつも着色されているのですが？

雨が降っていない平常時でも、海拔ゼロメートル地帯や、天井川のような、河川水位や海水面より地盤の標高が低いエリアは、常時着色されている場合があります。そのようなエリアでは、「堤防」があるため、いつも河川や海の水位が高くても、浸水しないように守られています。

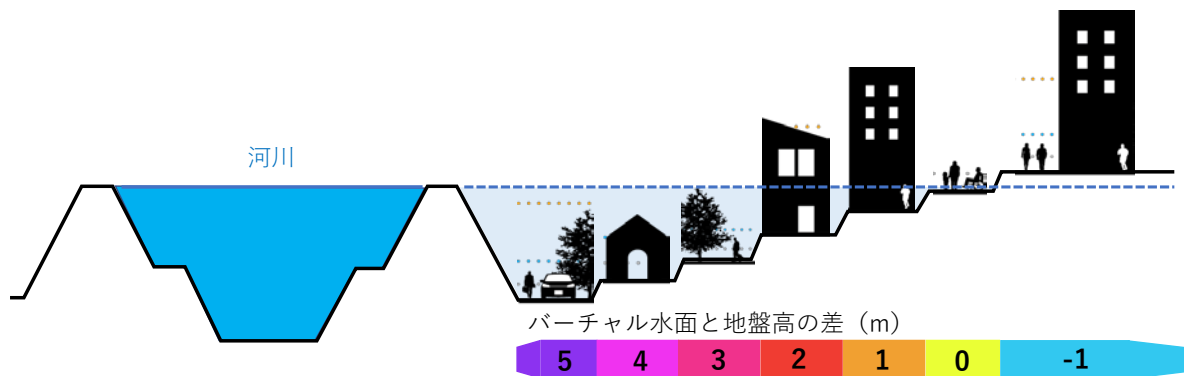
常時着色されやすいエリアについては、マップ上に枠で囲った表示を行っています。



東京都東部 江東デルタ地帯の海拔ゼロメートル地帯

## □ 凡例の色は何を示しますか？

河川水位や海水面と河川や海岸線付近の地盤の標高値の差分[m]をとり、地盤から何 m 浸水するリスクがあるかを示しています。その数値によって、7 段階の色に分けて表示しています。「0」より小さい数字の色の場合は、付近の河川や海岸の水位のほうが地盤高よりも低いことを示します。「0」以上の数字の色の場合は、付近の河川や海岸の水位が地盤高よりも高いことを示します。



## □ 雨が降ったとき、降りそうなときにだけ着色されていますか？

バーチャル水面マップは、24 時間 365 日、その時の河川や海岸の状況を反映して表示しています。雨が降った時は、もし堤防がない場合や堤防がなくなった場合の浸水リスクを示すものとして、避難や貴重品の浸水被害を軽減するための行動などにご利用いただけます。一方、晴天の時も表示していますので、身近な河川水位・潮位に興味を持つツール、学校での防災・減災教育の教材などにご利用いただけます。

## □ 川のなかでも着色してるように見えますか？

河川の中、堤防に囲まれた範囲も、その地盤高データを使用して解析した結果を着色しています。そのため、河川敷(高水敷)やいつも水が流れている低水路もその標高によって色分けして表示されます。

## □ どんなデータを使用して解析していますか？

国土交通省・都道府県が管理しているリアルタイムの河川水位データ、海上保安庁、国土交通省のリアルタイムの潮位データ、国土地理院から公開されている地盤高データを使用しています。